

事務事業名		敬老祝金支給事業		<input type="checkbox"/> 実施計画登載事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略登載事業	
政策体系	政策名	02 安心が確保されたまちづくりの推進		事業期間		予算科目	
	施策名	09 地域福祉の充実		<input type="checkbox"/> 単年度のみ		会計	款
	基本事業名	02 高齢者支援の充実		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 昭和50 年度～)		01	03
根拠法令		大船渡市敬老祝金支給条例		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【計画期間】		01	03
所属	部課名	保健福祉部長寿社会課		年度～ 年度		事務事業区分	
	課長名	佐々木 卓也		↓ ※全体計画欄の総投入量を記入		A 政策事業 B 施設整備	
	係名	高齢者福祉係	電話	0192-26-2943	C 施設管理 D 補助金等		E 一般(A~D以外)
	担当者	今野 真枝	内線	直通			
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)			
長寿を祝福して、敬老の祝状と祝金を贈呈する事業である。 主な業務 ①対象者の確認 ②対象者の審査 ③対象者との訪問日時の調整 ④祝状と祝金の贈呈				総投入量(千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0			

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
対象者に敬老の祝状と祝金を贈呈		ア	贈呈件数
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	
前年度と同じ。		ウ	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
100歳到達者		名称	
		単位	
		カ	100歳到達者
		キ	
		ク	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
長寿を祝福する。		名称	
		単位	
		サ	支給割合(100歳到達者に占める支給人数)
		シ	
		ス	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
生きがいをもちて暮らせる。			

(2) 総事業費・指標等の推移									
		年度	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(目標)	5年度(目標)	6年度(目標)	7年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	470	530	780	835	890	960
	事業費計(A)		千円	470	530	780	835	890	960
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	50	50	50	50	50	50
		人件費計(B)	千円	200	200	200	200	200	200
		トータルコスト(A)+(B)		千円	670	730	980	1,035	1,090
⑤ 活動指標		ア	15	17	25	27	29	31	
⑥ 対象指標		カ	15	17	25	27	29	31	
⑦ 成果指標		サ	100	100	100	100	100	100	

事務事業ID	0193	事務事業名	敬老祝金支給事業
--------	------	-------	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
 ・老人福祉法第1条から第5条までの規定に基づき、高齢者の長寿を祝福し、併せて社会の発展に寄与してきたことに感謝する。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
 ・高齢者の増加に伴い、3回の贈呈者の見直しをした。
 ①昭和50年度制定 85歳以上(1万円/人)
 ②平成16年度改正 85歳、88歳、99歳、100歳以上
 ③平成27年度改正 88歳(1万円/人)、100歳(3万円/人)
 ④令和元年度改正 100歳(3万円/人)
 ・令和4年市議会第1回定例会に敬老祝金支給事業の廃止(条例を廃止する議案)を提案するも否決となり、令和4年度も事業を継続する。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
 ・平成27年度改正では、廃止した年齢(85歳、99歳)の高齢者家族からの苦情が寄せられた。
 ・令和元年度改正では、敬老会で100歳と88歳の贈呈者を披露してきた地区公民館長から、「88歳の廃止は残念」との声があった。
 ・市議会議員からは、百寿の祝福や敬老意識の高揚は大切であり、敬老祝金支給事業の廃止には反対との意見がある。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	見直し余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 結びついていない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 市が市民を代表して長寿を祝福することは、高齢者の生きる励みになり、施策体系に結びついている。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 当である ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 国・市県、県内の自治体でも100歳到達者の祝金贈呈等を実施しており、当市の事業は妥当といえる。 <input type="checkbox"/> 一方では、長寿の祝福は敬老祝金の贈呈以外の方法もある。(地区公民館等で開催する敬老会の開催など)
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> これまでに贈呈対象者の見直しを3回行い、令和元年度からは100歳到達者のみを贈呈対象としている。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 100歳到達者には、市長の訪問による贈呈又はコロナ禍で訪問できない場合は介護施設の長からの代理贈呈の力により、全員に贈呈している。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	影響無 ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を廃止した場合は、100歳到達者や家族からの苦情が予測される。 <input type="checkbox"/> 事業を廃止した場合でも、敬老会開催補助金により75歳以上の高齢者には1,400円が支給される。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> これまでに贈呈対象者の見直しを3回行い、令和元年度からは100歳到達者のみを贈呈対象としており、事業費削減の余地はない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 業務内容は最小限のものであり、人件費削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	見直し余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 事業を開始した昭和50年は85歳以上の高齢者は現在よりも少なく、長寿を祝福する市の象徴的な給付事業とされてきた。 <input type="checkbox"/> 年々、贈呈対象者は増え、今後は100歳到達者が20人を超えることから事業見直しの検討は必要なことである。 <input checked="" type="checkbox"/> 市祝金支給事業につき贈呈対象者に一定の負担を求めるものではない。よって、事業の在り方(廃止)は、市民感情を考慮しつつも、他の事業との優先度や緊急度を勘案して市が判断するものである。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果																					
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) → ③ 終了・廃止・休止	左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 ・3回に渡って支給要件等の見直しを行っており、事業経費の削減が図られている。 ・令和4年度も事業を継続する一方で、事業廃止の検討は、市民の声や市議会議員等の意見を踏まえながら進める。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持(令和4年度) ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止(最終的)	長寿の祝福は重要との認識は変わらないが、市の財政状況を踏まえた事務事業の在り方、高齢者福祉事業の重点実施(見守り、移動を含めた生活支援)を総合的に勘案して、本事業の方向性(廃止)を検討する必要がある。その際には、市民の声や市議会との意見交換を大切にして、一定の理解を得たうえで判断する。